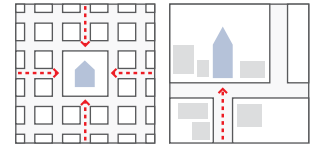
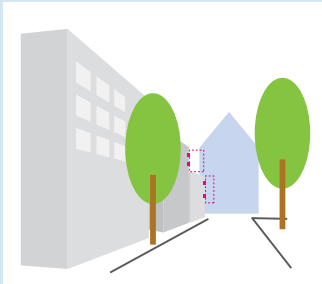


④ アイストップとなっている場合

様々な場所から
楽しめる工夫

歴史的景観資源がアイストップになっている場合は、輪郭線をくずさないように、周辺の建物の配置や広告物の位置を工夫することで、シンボルとして街並み景観を演出することができます。

並木により視線が
誘導されています

アイストップとなる通りに、一体性を持った並木を配置することで、歴史的景観資源へ視線を誘導しています。

セットバックにより見通し
が良くなっています

アイストップとなる通り沿いの建物等が、セットバックしているため印象的な景観をつくり出すことができます。

景観
まちづくりの
POINT

シーンを意識してみましょう

視点が固定された眺めをシーン（場面）と呼びます。歴史的景観資源を近くから見る場合、周囲も含めて離れて見る場合とでは見え方が変化します。

近くから見る場合は、歴史的景観資源と隣接する建物の配置等の良い位置関係を見つけ活かすことで、心地よい空間づくりにつながります。一方、離れて見る場合では、歴史的景観資源を含めた地域全体を意識することで、調和のとれた景観づくりにつながります。

